

第2学年3組 美術科学習指導案

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣岡, 誠司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025744

第2学年3組 美術科学習指導案

指導者 廣岡 誠司

1 学習のくくり「日本の美を伝え合おう」（14時間）

2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

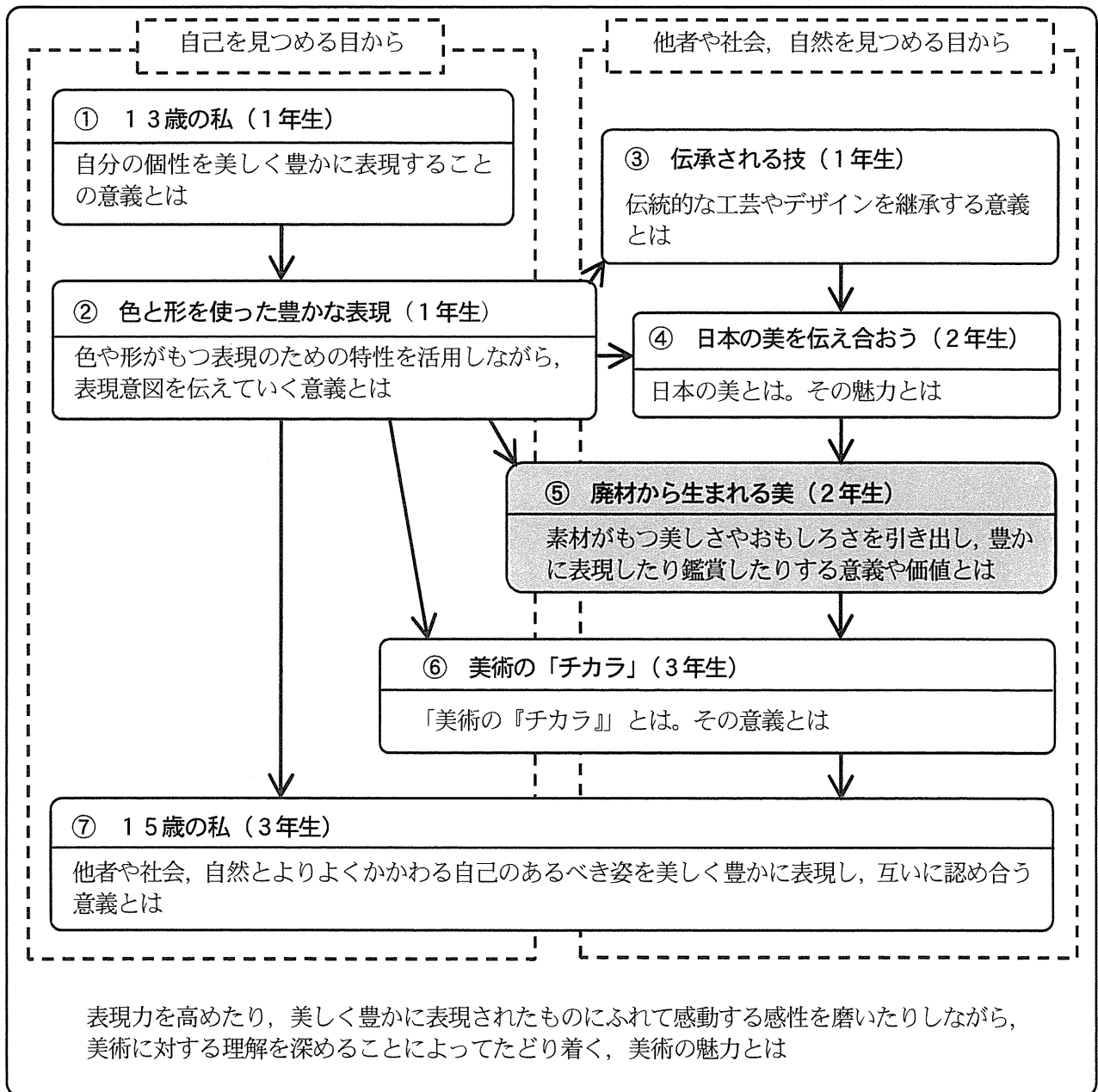
美術科3年間でめざす姿

自他の生活をより美しく感動あるものにしていくために、創造活動の喜びを味わうとともに、豊かな感性や美術の基礎的な力を身につけたり、美術文化についての理解を深めたりすることで、美術を愛好する心情と豊かな情操を身につけようとする生徒

美術科3年間の共通テーマ

表現力を高めたり、美しく豊かに表現されたものにふれて感動する感性を磨いたりしながら、美術に対する理解を深めることによってたどり着く、美術の魅力とは

上段：学習のくくり名 下段：共通テーマ



3 学習のくくり「廃材から生まれる美」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		育成する資質・能力の要素と 階層レベル		知識		スキル			情意	
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身体	E 社会	F 興・関	G 追究		
ガイダンス (2)	<p>《共通テーマと共通課題の理解》</p> <p>○「ねじブロック」を使って自由に形をつくりだす活動を通して、制限のある中でも美しさやおもしろさを表現したり味わったりすることができることを感じ取る。また、できあがった作品を鑑賞し合うところまでの活動を客観的に振り返り、一連の表現と鑑賞の活動の中にある特徴を考えることで、共通テーマや共通課題を理解する。(本時2/2)</p>	3		3	—	2	2	2		
		4					3			
つかむ学習 (4)	<p>外部への影響(1)</p> <p>○「ものをつくりだそうとする人間の本能的な欲求」について理解するとともに、鑑賞者や社会が作品からどのような影響を受けるのかといった「美術のメカニズム」についてグループで話し合い、発表し合う。(1)</p>	3		2	—	2	3	3		
	<p>魅力的な作品の特徴(1)</p> <p>○「おもしろい作品」「感動を与える作品」「よい作品」などに見られる特徴について、「ねじブロック」の級友の作品全体を見ながら自分なりに考察し、発表し合う。(1)</p>	3		2	—	2	2	2		
	<p>素材の特徴や組み合わせから生まれる魅力(1)</p> <p>○持参した廃材の「材質」「光沢」「形」「硬度」などに注目しながら魅力や特徴を発見し、何かの形に「見立てる」ことができる可能性を探ることで、素材に対する理解を深める。また、廃材を組み合わせることで新たに生まれる魅力や見立てについて語り合い、素材がもつ可能性を探る。(1)</p>	2	2	3	—	2	2	2		
	<p>廃材の接合方法(1)</p> <p>○廃材の材質や設置面積、接合の角度などに合わせた適切な接合方法を学ぶ。(1)</p>	1	1	1	—	2	2	2		
		2	2	2						
追究する学習 (6)	<p>《追究課題の設定》</p> <p>○共通課題を受けた追究課題の設定(1)</p> <p>つかむ学習で学んだことを生かし、どのような作品をつくりあげるのがかを明確に意識した追究課題を設定する。</p>	3		3	—	3	3	3		
	<p>《追究活動》《交流活動》</p> <p>○完成作品のイメージを大切にしながら、素材の特徴を生かしたり適切な接合方法を選択したりして「廃材アート」作品を制作する。(5)</p>	3		3	—	3	3	3		
		4					4			
つなげる学習 (2)	<p>《交流活動》《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》</p> <p>○完成作品を相互鑑賞したりこれまでの学習を振り返ったりして、共通テーマに対する自己の最適解をまとめる。(1)</p> <p>○最適解についての交流を通して、考えを深めたり広げたりする。(1)</p>									
	<p>【期待する生徒の表れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 素材の特徴を生かしながら効果的に組み合わせ、おもしろさや魅力がある「廃材アート」の作品をつくりあげたり、それらの作品のよさを自分なりに明確にとらえながら味わったりしている。 美術作品を制作したり鑑賞したりする意義について、自分なりに見だし、その価値を実感している。 など 	4		4	—	2	3	4		

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手だて

本学習のくくりで扱う題材は、捨ててしまう廃材を集め、それらを組み合わせながら「美」を生み出すことに挑戦していくものである。その過程の中で、生徒の廃材を見る目は変わっていく。それまでの自分の認識の範囲を超えた領域にまで考えを巡らせることが、新たな価値を生み出すことにつながっていくことを、生徒は体験を通して実感していく。

作品に初めて出会った時の感動は美術の魅力そのものであり、生徒はそのような感動を与えたり味わったりする経験を授業の中で繰り返し、その意義や価値を少しずつ見いだしていく。本学習のくくりで扱う題材は、この「作品との出会いの感動」を強く実感できるという特徴を持っている。また、制作の段階においては、生徒が幼少期の遊びや小学校での造形遊びなどの中で感じていた「純粋な創作意欲」を思い起こしながら、夢中になって素材に触れ、実際に手を動かして試行錯誤を繰り返すことができるという特徴もある。夢中になって制作に取り組んだり、完成した作品を見て感動を味わったりする一連の活動を客観視させることで、美術という文化の本質や特徴に気づかせながら、美術の魅力を実感させていきたい。制作過程の中で、生徒は発達段階に応じた見方・考え方を生かしながら、廃材の形や材質などの特徴を生かし、美しく魅力的な作品づくりをめざしていく。廃材を接合したり加工したりする経験が少ない生徒にとっては難しい作業になることが予想されるが、道具の正しい使い方を学んだり適切な方法や材料を選択したりしながらイメージを具体化させていけるよう、支援していく。これらの活動を通して、人間がものをつくりだすこと自体の意義や価値についても考えさせ、自分なりの考えをもたせていきたい。

そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

常識や既成概念にとらわれずにものごとを見つめ、そのよさを発見しながら有効に活用し、魅力的に表現する発想を生みだし、完成作品のイメージを実現するための手だてを考えだしたり身につけたりして力強く表現するとともに、それら一連の活動に意義や価値を見いだせる生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組ませる。

まず、ガイダンスにおいて、教材「ねじブロック」を使い、様々な形のネジやパーツを組み合わせた作品づくりに取り組ませる。「ねじブロック」は、部品同士の接合は容易で、部品を別の物に見立てたり実際に手を動かしながら制作に取り組んだりする中で、この後の廃材を使った作品制作の特徴を手軽に味わうことができる教材である。加えて、共通テーマや共通課題を提示することで、最適解についておぼろげながらに理解させる。さらに、学習計画表を示すことでこの後の学習活動の見通しをもたせる。

主体的な学びを実現させるために大きな障害となるのは、生徒の苦手意識である。本題材のように写実性を求められない立体的な作業には、苦手意識をもたずに取り組むことができると考えられる。また、実際に手を動かしながら試行錯誤を繰り返して活動していく中で、材料と向き合う時間が確保されることから、本題材は主体的・対話的な学びを実現させやすいと言える。廃材を組み合わせる作業には適度な困難さが伴うが、生徒が思い描いたイメージの具体化を実現させる知識を身につけさせたり、「どういった作品に感動があるのか」をつかませたりした上で制作に取り組ませていく。これらの支援により、生徒自身が納得できる作品をつくりあげさせ、充実感を味わわせるとともに美術の魅力や価値を実感させていく。これは、次の制作活動への意欲を高めるだけでなく、本学習のくくりの共通テーマに対する最適解にも直結しているものである。生徒は、学習過程の様々な段階で、他の生徒と相互交流を行ったり廃材の物々交換の交渉を行ったりしながら対話的な学びを繰り返し、共通テーマや共通課題に迫る。このように主体的・対話的な学びを実現させることで、生徒に教科固有の見方・考え方を身につけさせていく。この過程の中で、教師が生徒の表れを的確に見取り、適切な支援や投げかけをしていくことで、生徒を深い学びに誘い、学ぶ喜びを実感させたい。

また、学習計画表の、学習内容のまとめりとともに共通テーマに対する気づきのメモを記入させ、自分なりの考えを深めさせることで最適解を見いださせる。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの階層レベル)	素材がもつ美しさやおもしろさを引き出し、豊かに表現する意義や価値とは(レベル4)
共通課題	廃材を組み合わせ、美しく魅力的な作品をつくりだす中で、その価値を見いだそう。

4 本時について (本時 2 / 1 4)

(1) 本時の目標

【鑑賞の能力】	立体造形の表現特性にもとづき、素材の特徴を生かしたり素材の組み合わせによる見立てを用いたりしながら、美しく魅力的に表現し相互鑑賞する過程で、一連の表現と鑑賞の活動の意義や価値を自分なりに見いだすことができる。 (A B 3)・(A B 4)×(C 3)・(E 2)
---------	---

(2) 学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
<p>●前時で制作した「ねじブロック」の作品を思い出し、再現を試みる。</p> <p>●学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。</p>	<p>・自分がつくりだしたものを正確に再現することが、容易なことではないことを意識させるような言葉かけをする。</p> <p>・正確に再現できなくても、今回出来上がった作品にも独自のよさがあり、一回一回の作品づくりの機会が出来上がった作品には唯一無二の価値があることを伝える。</p>
<p>美しく魅力的な作品に出会い、感じたり気づいたりしたことをまとめよう。</p>	
<p>●前時も含めたここまでの学習で、感じたり気づいたりしたことをまとめる。</p> <p>●「ねじブロック」の作品を相互鑑賞し、自分が美しさや魅力を感じた作品を選び、「いいね！」カードを机の上に置く。</p> <p>●「ねじブロック」作品の制作から鑑賞までの活動を振り返りながら、一連の表現と鑑賞の活動に身を投じた自分や周囲の生徒を客観的に見つけ、それらの活動がどのような意味や特徴をもっているかについて考え、気づいたことをワークシートにまとめて発表する。</p>	<p>・完成した作品と、前時の作品の写真を見比べさせながら、感じたり気づいたりしたことを考えさせる。</p> <p>○感じたり気づいたりしたことを書きだせない生徒には、制作している段階や作品の再現を試みている段階など、それぞれの作業の最中にどのようなことを考えていたかを思い出すように助言する。</p> <p>・作品のタイトルに注目しながら、学級の生徒全員の作品を鑑賞するよう指示する。</p> <p>・「いいね！」カードに、その作品をよいと思った理由を簡潔に記入するよううながす。</p> <p>・発問の内容が正しく理解されるよう、プレゼンテーションを示す。</p> <p>・実生活を送る上で必要感を感じていない創作活動の意義や価値について問い直すことで、さらに深い思考をうながす。</p>
<p>※立体造形の表現特性にもとづき、素材の特徴を生かしたり素材の組み合わせによる見立てを用いたりしながら、美しく魅力的に表現し相互鑑賞する過程で、一連の表現と鑑賞の活動の意義や価値を自分なりに見いだしている。</p>	
<p>●学習計画表から、共通テーマや共通課題、おおまかな今後の学習の流れについて確認する。</p> <p>●本時の学習を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。</p>	<p>◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。</p>